

NEWS LETTER



NO.17 2004.1.1

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）

〒658-0003 神戸市東灘区本山北町 3-2-10

☎078-453-5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

頌 春 「にほんごひろば岡本」は5度目の正月を迎えることができました。皆さまのご支援・ご協力に感謝し、厚くお礼を申し上げます。支援者 63 名、学習者 51 名のグループに育ち、地域の日本語教室として、微力ながらも一定の役割を担えるようになったことを大変嬉しく思っております。とともに改めてその責任の重さを痛感しています。学習者の内訳は、日本社会で働く人 23 名、留学生とその家族 15 名、主婦 7 名、児童生徒 6 名で、国別では韓国 17 名、中国 13 名、他のアジア諸国 10 名、ヨーロッパ 6 名、北米 5 名と多岐にわたっています。

彼等が必要とする日本語はまさに人それぞれで、支援者は学習者の要望に応えられるように日々努力し、いろいろな工夫をしています。また、仕事上のあるいは家庭生活での悩みを打ち明けられることも少なくありません。言いたいことが十分に伝わらなかったり、ひとりで受けとめるには重過ぎたりすることもあります。そんな時、「親身になって自分の話を聞いてくれる人がいる」と学習者が感じてくれれば、問題解決への一歩になるのだと思います。ひろばでの学習をはなれた交流で心を通い合わせられることもあります。

日本語学習をとおして、何よりもお互いがひととして尊重し合える関係でありたいと願っています。

昨年「にほんごひろば岡本」は、いくつかの新しいことにチャレンジしました。

まず、日常活動や季節ごとの行事に学習者の声を反映させられるように、学習者から 2 名の運営委員（王禹さん、グレッグさん）を選出しました。彼等はバーベキューパーティやクリスマスパーティで大活躍してくれました。

次に、研修制度をより質の高いきめ細かいものにするために、従来のワークショップ以外に、ベテラン支援者が日常的に初心者をサポートする「初心者お助け隊」の設置、現職の日本語教師による「ステップアップ講座」の開講を実現させました。ステップアップ講座には外部からの参加もあってお互い良い刺激になりました。

これらは、今後も活動の太い柱として定着させたいと思っています。

率直なご意見やご要望を寄せていただき、みんなでつくる「にほんごひろば岡本」を合言葉に、今年も一緒に頑張りましょう！（西村佳子）



ひろば イベントフォトレポート ～2003 年もいろいろありました～

●バーベキューパーティ(2003. 10. 14 芦屋奥池 遊びの広場)

第4回バーベキューパーティが10月14日(日)芦屋奥池「遊びの広場」で開かれました。

総勢60名の参加(学習者サイド33名、支援者サイド27名)があり、
おいに食べて
飲んで遊んで、
交流の輪を大きく
広げました。



●クリスマスパーティ& スピーチ大会(2003. 12. 21)

2003年のクリスマス会は12月21日、愛甲法科専門学校で開かれました。参加者は支援者、学習者やその家族、友達も入れて総勢66名の大パーティになりました。これから「ひろば」の仲間になる人などの参加もあり、とても楽しいひとときを過ごせたと思います。今年も例年のように食べ物、飲み物を支援者の方々が用意してくださり、また、テーブルごとに素敵なフラワーキャンドルも飾り付けられ、とても華やいだ雰囲気になりました。みなさん、目もお腹も十分に満たされたようです。



今回も学習者によるスピーチ大会が行われました。9名の参加で、自分の体験を面白おか

しく話す人や真剣に訴えかける人、支援者・学習者を引き寄せてトークショーさながらの人、バラエティーに富んだスピーチ大会でした。審査の結果1位から3位の優秀賞に加え特別賞、敢闘賞、お笑い大賞などが賞品と共に授与されました。二人三脚で頑張ってきた学習者、支援者は感慨ひとしおだったことでしょう。審査委員長の下田先生の「上手く話すことよりも、いかに相手に気持ちを伝えることができるかが大切」というお話がとても印象的でした。

スピーチ大会の審査の時間を使って、嶋内さんの指導のもと、「ふうせん」とちょっと難しい「星」を折りました。



最後に「いす取りゲーム」が行われ、最終戦はなんと女性ばかりの戦いとなりました。優勝は李承姫さんで、「最高ケツアツ?賞」のおいしいようなメロンを獲得して、とても誇らしげでした。

楽しいパーティも午後3時30分、お開きとなりました。後片付けも皆さんに手伝っていただきました。本当にご協力ありがとうございました。(井畑真理子)



スピーチ大会出場者の顔ぶれ紹介



★^{リン}林 恒煒くん (中国・1位受賞)

テーマは「日本に来て2年半」。高校生活

でさまざまな体験をして、「人とのコミュニケーションが一番大切だ」ということを学びました。青年らしく熱く語ってくれ、とても新鮮な気持ちになりました。

下田先生からは、期待を込めて、ユーモアも要求されていましたね。

★^{キン}金 智秀さん (韓国・2位受賞)

テーマは「ひろばに会って」。彼女の夢は韓国に帰ったら「にほんごひろば岡本」の韓国版をつくること。素敵な大きなメッセージを私たちに伝えてくれました。



★^{メイ}メイ・トゥさん (ミャンマー・3位受賞)

テーマは「私と温泉」。昨年に続き2回目の参加、温泉デビューのお話をユーモアたっぷりに、温泉の温かさと人の心の温かさを一生懸命話してくれました。



★^{パク}朴 鍾徳さん (韓国・特別賞受賞)

テーマは「敬語の使い方の違い」。かなりハイレベルなスピーチでした。支援者にも学習者にも「敬語」は難しいですね。日本人の敬語の使い方への提言も真摯に受けとめましょう。



★^カ何 燕さん (中国・敢闘賞受賞)

テーマは「日本での生活」。来日6カ月にもかかわらず、とてもしっかり話してくれました。彼女がスピーチしている間、ご主人がずっとカメラを構えて見守っておられましたよ。



★^リ李 友福さん (中国・敢闘賞受賞)

テーマは「ルミナリエ」。今や神戸の冬の風物詩にもなったルミナリエの様子を一生懸命話してくれました。





★**マーティン・ストロンベックさん**（スウェーデン・**お笑い大賞**受賞）

テーマは「早口言葉」。日本の早口言葉を英語と日本語で、さらには韓国語の早口言葉までも飛び入り参加となり、さながらトークショーの雰囲気楽しく盛り上げていただきました。（写真左）

★**スコットさん**（カナダ・**お笑い大賞**受賞）

テーマは「びっくり」。突然テーマがその場で変わり、私たちもびっくりでした。仕事場でのお話がとても面白かったです。納豆大嫌い！ 温泉大好き！ 日本人大好き！ の連発でした。



★**グレッグ・ベンソンさん**（U S A ・**特別参加**）

テーマは「冠詞の教え方」。昨年、特別賞を受賞したひろば最古参のグレッグさん。日本人あまり知らないもう一つの「桃太郎」のお話をしてくれました。さすが日本語も日本もベテランですね。

佐 古 田 賞

2003 年 11 月 30 日に永眠された佐古田幹子さんのご家族のご厚意により、この 1 年間「にほんごひろば岡本」でめざましい活躍してくれた人に佐古田賞が贈られることになりました。設立以来、中心になって活動を支えてこられた佐古田さんの気持ちを忘れないで、あとに続く人たちに伝えていきたいと思います。2003 年は、初めての学習者運営委員として活躍してくれたグレッグさんに贈られました。

●**ステップアップ講座レポート(2003. 9. 20 ~ 10.18 全 5 回)**

9月20日から10月18日の毎土曜日（全5回）、京都民際日本語学校の渋谷・岡田先生を講師に迎えて、『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』23課～27課の教え方について学びました。

「にほんごひろば岡本」以外からの参加者も含め延べ77名の支援者が、講師の丁寧な解説の後、ペアになって例文作成などの実習に取り組みました。以下は受講者のレポートです。



■**「～ができました」の例文作成でステップアップ！**

第 2 回のステップアップ講座は「授受表現」で、これは非常に日本的な表現であるため導入に気を遣うところであるということでした。特に、授受表現「～てあげる」は英語圏では動詞＋「for you」で表現され、店員が客に対してそれを用いることが美德であるのに対し、日本では逆に「恩着せがましさ」を与えてしまうことがあります。ここでのポイントは、日本的な感覚を持ちあわせない学習者にそれを知ってもらうことなのです。では、その微妙なニュアンスをどう学習者に教えるのか？ 先生曰く、的確なシチュエーションを設定し、それに適切な例文を作って伝えるしかないとのこと。

なあんだと思って作ろうとしましたが、これがなかなか難しいのです。この時ばかりでなく、参加する度に、的確な例文を作ることの難しさを痛感しましたが、講座も大詰めの第5回、「～ができました。」(完成・発生)の導入のために作った例文「～妹ができました」は、後日西村さんに褒めてもらいました。

今回の講座を受けて、少しではありますがステップアップすることができたのかな？と、岡田・渋谷両先生に感謝しています。(別所 美保)

■「ば」の例文作成に挑戦！

第3回は渋谷先生の指導で条件表現を学習しました。いつもながらベテラン支援者の熱意やユーモアには驚かされます。「じゃあ私も！」と思って、「ば」の例文を作るところで、「風邪をひけば学校を休めるのになあ」とリアルな例文を発表したら、見事に失笑されてしまいました。しかしこの日、本音を言ってしまった罰なのか、本当に風邪をひいて高熱を出してしまったのです。「元気ならば、たくさん遊べるのになあ・・・」とつくづく思いました。(岩野 優)

■「～んです」の多様性に目からウロコ！



『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』を使ったことがない私は、先生から具体的な教え方を「教えてもらえる」講座だと甘い考えで臨んだのですが・・・「ハイ、二人一組で文型導入のための例文を考えて、会話を実践してください」と言われてあわててしまいました。

26課の「～んです」は会話のみの表現なので短期滞在の人などには教えなくてもいいこと、わざと手を包帯でグルグル巻きにして教室に登場し、既習文型「何をしましたか？」から新出文型「どうしたんですか？」にもっていく少々凝った演出など披露してくださいました。

受講者の作った例文を「～んです」の4通りの用法(理由・説明・確認・前置き)に分類する作業では、何気なく使っている言葉の多様性に、「目からウロコ」の感がありました。

楽しく続けるには、1回ずつ充実感のある内容に！ウソはつかない！知ったかぶりはしない！わからないことは「来週までに調べてきます」と言って誠実に対応することなど、実践に即したポイントも教えていただき、とても参考になりました。(松井 千津子)

■「導入・プラクティス・ロールプレイ」を通して自分なりのステップアップ！

ベテランの方々に混じっての講習は、最初チンプンカンプンで頭の中はパニックでした。(初めて日本語を学ぶ人たちの気持ちや思いを多少感じとれたかな？)

渋谷、岡田両先生のグイッと引き込まれるご指導で楽しく学ぶことができ、導入、プラクティス、ロールプレイなどを通して自分なりに把握することができました。次回からの学習に役立てたいです。正しい、美しい日本語を学んでそれを伝えていければと思います。

Step up 講座を企画、開催して下さったスタッフのみなさんに感謝いたします。(あしやにほんごがっきゅう・坂本 喬子)

■「日本語はすばらしい」のメッセージを大切に

ボランティアとして「日本語」に関わる機会を得て、改めて日本語を見つめるようになり、つくづく日本語って難しいなと思うようになりました。

講座では、まず支援者が言葉の持つ意味をよく掘り下げて探求するように、と指導されたことが印象に残っています。日本語の正しい使い方をしてほしいとの思いで指導されていることがよくわかります。「日本語はすばらしいんだよ」とのメッセージが伝わってきました。(あしやにほんごがっきゅう・江口 恵子)

学習者紹介

●何 燕さん（女性・中国出身）

春にはお母さんになります

私が何燕さんと出会ったのは、彼女が日本に来てまだ間もない頃で、日本語もほとんど話せない様子でした。

何燕さんは、結婚して、日本で働くご主人と一緒に、2003年5月に神戸に来ました。日本の言葉が分からないので、日本語の話せるご主人と一緒に申し込みに来たそうです。

授業をスタートしてからは、その熱心さに驚きました。にほんごひろばでの週2回の授業とは別に、他にも日本語の学校に通い、出した宿題はもちろん、自宅で予習や復習も真面目にこなしているようでした。その姿に私も自然と授業に気合が入るようになりました。

その甲斐もあって、もうすぐ『みんなの日本語Ⅰ』のテキストが終わります。会話もとても上手になって、10月のバーベキューパーティでは、来日した頃の何燕さんしか知らない支援者の方々が、日本語でたくさん話をする彼女を見てとても驚いていました。

水曜日にもにほんごひろばで勉強している何燕さんですが、水曜日は別の支援者とフリートークをしているそうです。彼女は言葉の通じない日本で、しかも主婦1年生。そして、この春にはお母さんになります。買い物に行っても色々分からないものがあったりして、何に使うのか不思議に思っているものも沢山あるらしいのです。水曜日には、そういった日本での生活上の疑問をフリートークで解決しています。私では、食材やレシピ、子育て等の知識は



望めないで、水曜日の授業で日本の生活を学べて私自身も安心しています。私も一緒に参加したいくらいです（笑）

彼女の魅力は、その笑顔と明るい性格。仲のいいご主人との新婚生活を聞いていると、こちらまで幸せな気持ちになります。今後、もっと日本語が上手になったら、私にもっと色々な話をして楽しませてくれることでしょう。何燕さんの子育て奮闘談を楽しみにしている私としては、ますます授業に気合が入る今日この頃です。（古川 知津子）

学習者の自己紹介

日本人らしく話せることを目指して

黄 晩碩（韓国出身）

三菱電機情報ネットワーク社に勤めている黄 晩碩（ファン・マンソク）と申します。会社で知り合った山下さんから紹介してもらったきっかけで、にほんごひろば岡本に来るようになりました。

最初ここに来た時、西村さんからの面接と、私の実力を評価する為のテストまでありましたので、凄く緊張しました。その時は、自分の住所もすぐ思い出さないほどでした。その後、今教えてもらっている麻里子さんに会って、今までずっと毎週土曜日に凄く楽しく勉強が進んでいます。

麻里子さんと初めて会った時は、恥ずかしくて、言いたかった話も口からすぐ出なかったんですが、半年以上過ぎた今は以前と比べると、言わなくても表情だけでお互いの気持ちが十分分かるほどです。私にとっては会社で一番難しかった電話での話し方とか敬語についても教えてもらったので本当に助かりました。そして、本を読むのもまだうまくないので、本を読みながら授業が進行されています。にほんごひろばに来る前は一人で勉強しましたが、自分だけでは分からない事があるのと話せる相手が会社



しかいなかったもので、日本語実力がなかなか進まなかったんですが、ここに来てからは、1 週間に分らなかった事を一気に教えてもらっているので、本当に助けて頂いています。

授業が終わって帰りに、たまに昼御飯する事もあるので、言葉だけではなく友達にもなってくれる麻里子さんにいつも感謝しています。

まだまだ漢字を書くのも苦手ですが、いつか私が本当に日本人らしく話せるようになる日を目指して、いつも西村さんが笑顔で喜んで下さっているにほんごひろばで、良い思い出を少しずつ作りながら勉強を続けたいと思っています。

支援者紹介

◆増田 綾子さん

春から北京で頑張ります

私は神戸松蔭女子学院大学 4 年生の増田綾子です。大学では日本語教育を専攻しています。

にほんごひろば岡本には 2003 年 5 月からお世話になっています。現在の私のパートナーは韓国出身の大学生、金智秀（キム・ジスー）さん（写真右）です。彼女は神戸市にある会社でインターンシップの研修生として仕事をしています。スーさんが来日したのは 8 月、私達は 9 月からレッスンを始めました。あいさつから始めた日本語も、今ではだいぶ上達し、彼女は知っている日本語を出来るだけ使って会話をするように努めています。最初の頃、私は彼女と英語で話していたのですが、最近はほとんど日本語で話しています。スーさんはとても勉強熱心です。毎回予習や復習を言わなくても進んでいきます。文法や使用場面などについて、分からないことはすぐに質問してきます。私も刺激を受け、できるだけ彼女の力になれるよう、予習復習をしてレッスンに臨んでいます。

2003 年夏には、兵庫県国際交流協会で行われた日本語教育実践講座に参加し、初めて多人数のクラスでの教壇実習を経験しました。学習者の立場に立って、クラス運営も考え授業を進めていくことは、私



にとってとても大変なことでしたが、本当に多くの事を学ぶことが出来ました。

スーさんはとても明るく、優しく、積極的な女性です。卒業後は就職をして、日本でのインターンシップの経験を活かしていきたいと笑顔で私に話してくれます。私は卒業後、松蔭の提携大学である北京の大学で、ティーチングアシスタントとして日本語教育に携わります。不安も大きいですが、大学の授業、教壇実習、そして、にほんごひろば岡本で学んだことを活かし、頑張りたいと思っています。

◆渡辺 映子さん

話好きな、人間好きな日本語教師に

はじめまして。竹中さん、堀さんから紹介していただいて 7 月からお世話になっています渡辺です。どうぞよろしくお願いします。

小さい頃から人の出入りの多い場所で育ったせい



か、人と話したり接するのが大好きでいつの間にか話好きのおばちゃんになってしまいました。

大学に入ってからバイトに明け暮れ、小銭が貯まると海外放浪旅行を繰り返し、旅行会社に就職してから国内外を飛び回っていました。日本語以外何ひとつ満足に語学のできない私ですが、おかげ様

でたくさんの友人に出会うことができ、大きな財産をいただいたなあと考えています。結婚後、留学生のホストファミリーをしながら子育てをし、それも一段落したので、何か人のお役に立てることは？また自分自身にも勉強になることは？と考え、昨年1月より日本語教師養成講座に通い始めました。そこでは、日本語の奥深さ、教えることの難しさを改めて実感し、やっていけるのだろうかと不安にもなったのですが、「百聞は一見に如かず」で思いきってにほんごひろばの門を叩きました。現在ボランティア1年生として、2003年の初めに来日された中国の韓国平さん（私より2歳上のお兄さんです）と、『みんなの日本語』を使って一からお互い日本語の

勉強を始めています。

韓さんの奥様は、日本の企業で働かれているキャリアウーマン。韓さんは、もっぱら日本語の勉強と主夫をされているようで、趣味の釣りや得意の料理の話、1週間のできごとを交えながら会話中心に楽しい1時間半を過ごしています。近々、韓さんの手料理を家族でご馳走になる予定です。今からとても楽しみです。というわけで、今はボランティアを中心に人の輪を広げ、近い将来は日本語学校の教師、遠い将来は外国での日本語教師を夢見つつ、できない語学の勉強に励んでいます。話好きな、人間好きな自分らしい日本語教師になるために、ボランティア1年生、頑張りたいと思っています。

<目からウロコ話>Vol.2



★ イギリス編

両親や祖父母などの思いをこめて自由に好きな名前をつける日本と違い、イギリスやオーストラリアでははっきりとした命名のルールがあるそうです。祖先のルーツをはっきりさせるという意味あいがあるのでしょう。

初めての子供には父方系列の名前、二番目は母方系列の名前、三番目からは好きな名前をつけます。

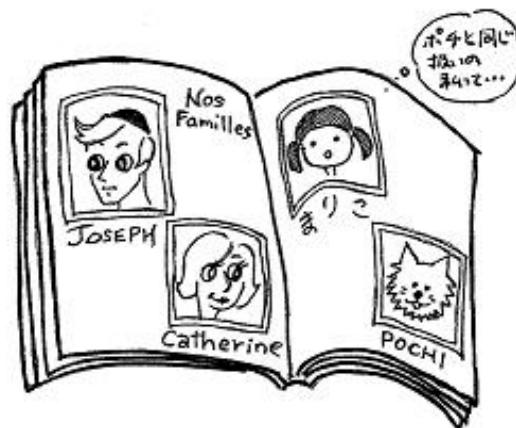
《例》ユダヤ系の父とアイルランド系の母の場合は

第1子（男）ジョセフ

第2子（女）キャサリン

第3子（女）まりこ

※他に中国や韓国にも独特のルールがあるようです。またまた目からウロコでした。



■お知らせ■

NEWS LETTER No.18 は佐古田幹子さんの「追悼号」にしたいと考え、没後100カ日の発行を目標に準備を進めています。佐古田さんへの思いが溢れた誌面にしたいと思っています。多くの皆さんからの寄稿をお待ちしています。（西村）

◆ 本誌の内容 ◆

- | | |
|-------|---------------------|
| 【特集】 | ひろば イベントフォトレポート……2 |
| | バーベキューパーティ……2 |
| | クリスマスパーティ&スピーチ大会……2 |
| | ステップアップ講座……4 |
| 【連載】 | 学習者紹介……6 |
| | 学習者の自己紹介……6 |
| | 支援者紹介……7 |
| 【コラム】 | 目からウロコ話 Vol.2……8 |